

2025年 第20週 (5月12日～5月18日) の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

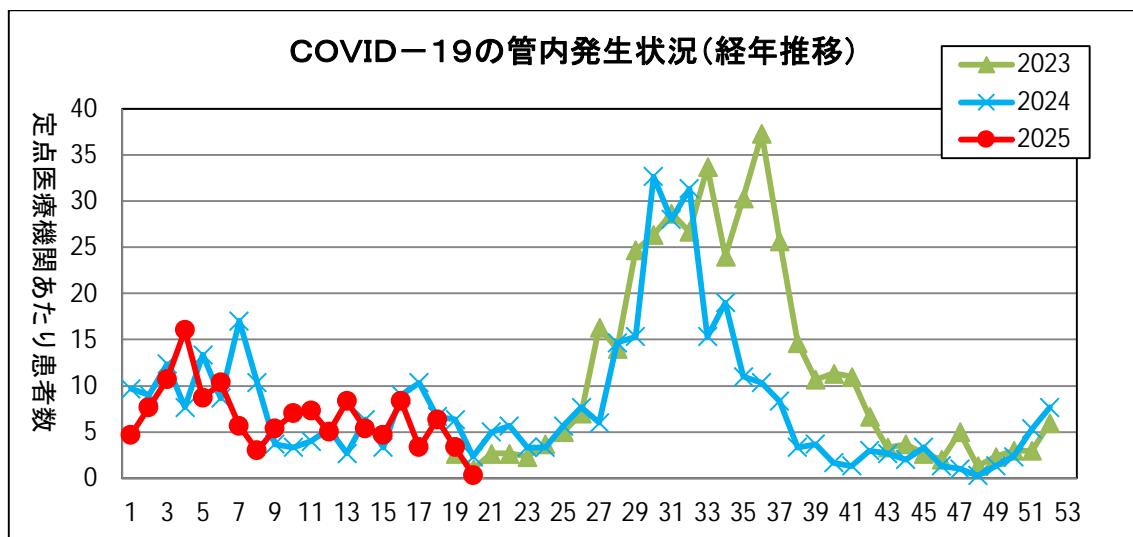
- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 インフルエンザについて
- 3 管内の感染症発生状況（上記2疾患以外のもの）
伝染性紅斑が流行レベル基準値を超え、警報レベルとなりました。
- 4 県内の感染症発生状況（百日咳）

I 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週0.33人（先週3.33人）で先週から減少し、兵庫県内の定点あたり報告数は今週1.02人（先週1.02人）で、先週から横ばいでいた。地域別では、宝塚保健所管内が3.40人と最も多く、福崎保健所管内3.00人、赤穂保健所管内2.17人となっており、年齢別では、60歳代が16%と最も多く、次いで70歳代が13%となっています。

また、県内の社会福祉施設においては、当所管内分1件を含め今週2件（先週1件）の集団発生が報告されています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注) 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)に関する情報](#)

[兵庫県感染症情報センター](#)

◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

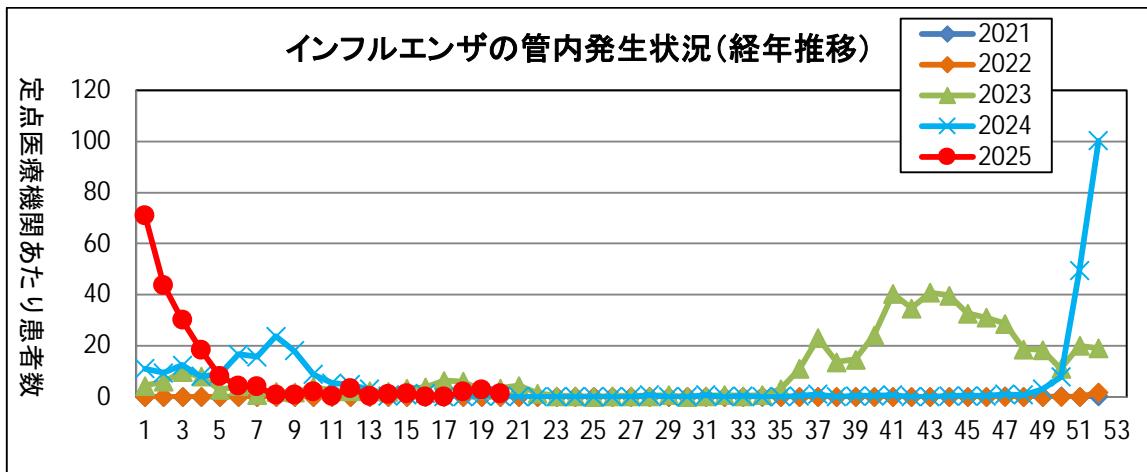
[コロナウイルス感染症](#)

2 インフルエンザについて

管内のインフルエンザの定点あたり患者数は、今週1.33人で、先週(2.67人)から減少し、兵庫県内の定点あたり患者数は今週1.28人で、先週(1.01人)から増加しました。

直近の5週間に県内の定点医療機関から報告された患者931人の年齢分布では、10~14歳が27%、5~9歳が26%で、15歳未満が全体の64%を占めています。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、手洗いが有効です。また、感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケット、早めの受診が重要です。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[インフルエンザ疾患の発生状況\(学級閉鎖・集団発生\)](#)

[兵庫県インフルエンザ情報センター](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[インフルエンザ](#)

3 管内の感染症発生状況(新型コロナ以外のもの)

(1) 管内の全数把握感染症(すべての医療機関から報告を求める感染症)

第20週は、百日咳が1人報告されました。

(2) 定点把握感染症(指定された医療機関から報告を求める感染症)

(2025年20週)※定当: 定点当たり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
4	1.33	-	-	-	-	-	-	20	10	-	-	-	-	4	2	2	1	1	0.33

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性結膜炎		無菌性結膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎(ロタウイルス)		急性呼吸器感染症	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	191	63.67

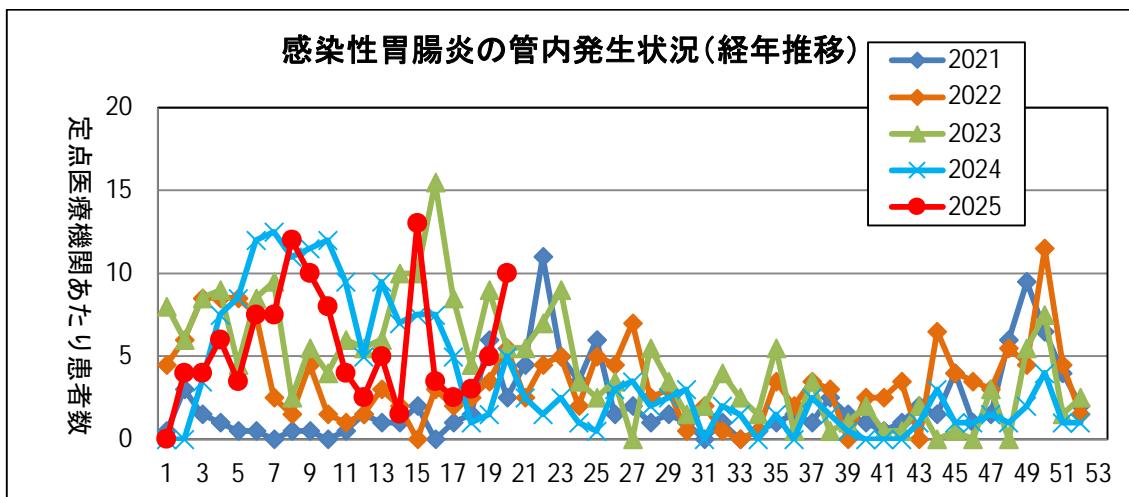
※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症\(ARI\)](#)

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が10.00人で、先週(5.00人)から増加し、兵庫県でも9.97人で、先週(6.95人)から増加しました。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

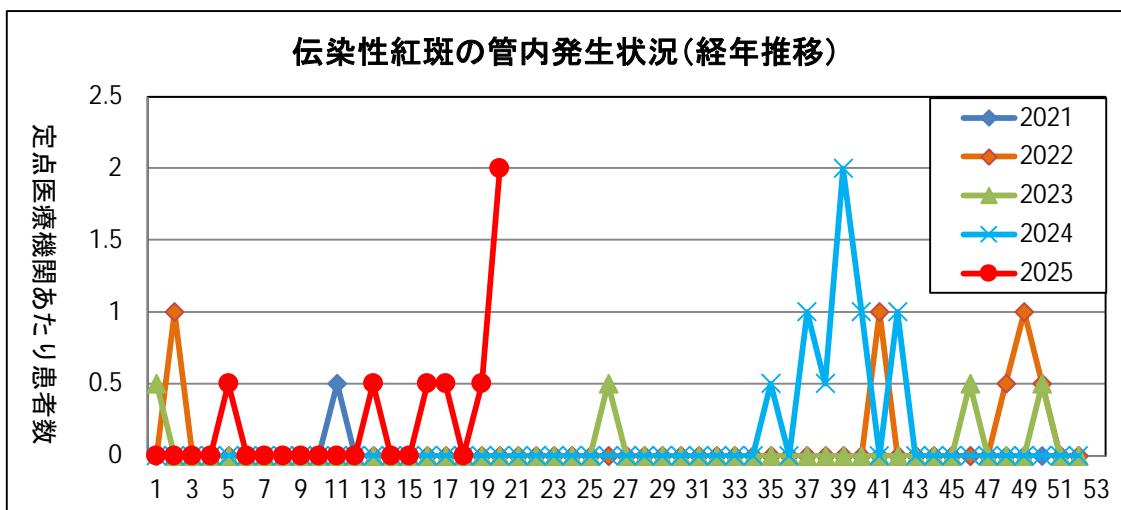
◆兵庫県ホームページ

[感染性胃腸炎\(ノロウイルス等\)について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[感染性胃腸炎](#)

また、管内の伝染性紅斑の定点あたり患者数は2.00人で、先週(0.50人)から増加し、流行レベル基準値(2.00人)となったため、警報レベルとなりました。兵庫県でも1.18人で、先週(0.71人)から増加しました。伝染性紅斑は、「ヒトパルボウイルスB19」による感染症で、両頬と手足の赤い発疹を特徴とし、頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」とも呼ばれています。子どもに多い感染症ですが、大人が感染することもあります。頬に発疹が出現する7~10日前くらい前に、微熱や風邪症状が見られることが多く、この時期にウイルスの排泄量が最も多くなり、発疹が現れたときには感染力はありません。発疹のピークは3~4日目で、7~10日経つと次第に消えていきます。一度感染すると終生免疫が得られますが、過去に感染したことのない妊娠が妊娠中に初めて感染すると、赤ちゃんが胎児水腫という病気になることがあるので注意が必要です。発疹が出現する前の時期に感染力があるため、手洗いやマスクの着用等、日頃からの基本的な感染対策が重要です。



◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

伝染性紅斑

4 県内の感染症発生状況（百日咳）

県内では、今週140人（先週109人）の報告があり、今年の累積患者数は1,044人となりました。当所管内でも1人の報告があり、今年の累積患者数は7人となっています。県内で今年発生した推定感染経路として、家族内感染が576人、学校内流行が193人報告されています。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染（飛沫感染）し、7～10日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります（約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（約2～3週間）。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないでの、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

百日咳について

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

百日咳

百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第三版）